

第1回 柳沼先生による研修会

H29. 5. 25

柳沼良太先生 岐阜大学大学院教育学研究科准教授 中央教育審議会道德教育専門部会委員

題材 5年 「カーテンの向こう」

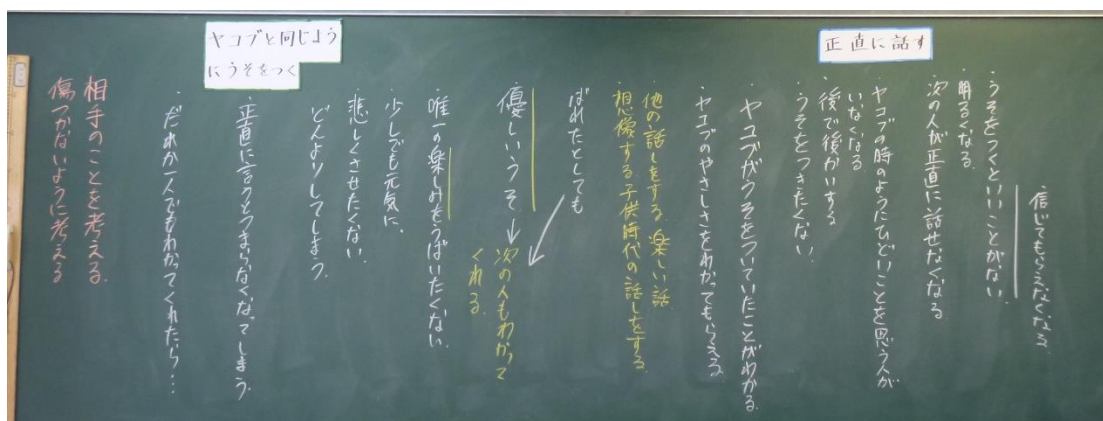
1. 授業内容

- ・ 導入で、嘘をついてもよいか悪いかを考えさせた。
- ・ 展開での中心発問は『外の様子を話してくれと言われたら、どうしますか』。ここで、「正直に話す」「嘘をつき通す」のどちらかを選び、その理由について話し合った。
- ・ 「正直に話す」の立場に対して、切り返しの発問で、正直に話した後、どうするかを考えさせた。
- ・ 「嘘をつき通す」の立場に対しては、自分が悪者になっても嘘をつき続けるかと発問し、考えさせた。
- ・ 板書は、立場で書く場所を分けた。
- ・ それぞれの立場において、考えさせた後、どちらの意見も認め、「本当の思いやりとは」について、考えさせた。



2. 問題解決的な学習について

- (1) 今までの本校の道德の進め方と違う点
- ① 自分だったらどうするかと考え、立場を示す。
 - ② 意見を交流させて、それぞれの立場の理由を話す。
 - ③ 板書の書き方は、後でまとめることを考えて書く。
 - ④ ワークシートに、自分の立場や意見を書く。



(2) 柳沼先生より 今日の授業でよかった点

- ・ 「今後、どうしていくか」など、踏み込んだ発問があった。
- ・ 児童が自由にのびのびと発言していた。学級経営がうまくいっていて、何を言っても許されるという雰囲気がある。
- ・ 主体的に考えられる資料であり、「何のための嘘だったのか」を振り返ることもできた。

(3) 柳沼先生より 今日の授業から見た課題点

- ・ 読み語りだけではなく、資料を渡してその題材にちりばめられたワードを拾って授業に生かすこともできる。
- ・ 今日のテーマを『思いやり』1つに絞ってしまっているのだろうか。『人間愛』『よりよく生きる喜び』などもテーマである。
- ・ 児童の心の変容は1日では変わらない。ワークシートをうまく活用しつつ、変容を見ていく。授業の最初と最後で、同じことを聞いて変容をみることもできる。
- ・ 対話的な学びをもっと取り入れていく。児童同士の話し合いも授業の中に組み込む。
- ・ 誰でも分かるように、指導案に児童の普段の様子を入れておくといよい。
- ・ 二者択一でなく、第3の解決策があってもよい。
- ・ 今日の授業は「答えがない」で終わってよいのだろうか。導入に戻ってみてもよい。

3. 今年度の道徳の授業の進め方について

- ・ 問題解決的な学習の進め方を取り入れる←型にはまりすぎないように
- ・ ワークシートを活用する←使う・集める・返す（時々コメントを入れる）・ファイリングする
- ・ 学校行事や特別活動、地域と関連した題材での授業を行う←内容項目をよく考える。自作教材もあり。関連した題材の読み物資料も探してみる。

4. 柳沼先生のご指導・ご助言より（授業案のポイント！）

○ 45分間でまとまる授業の提案を。

- ・ 教師が進めていくところ、引っ張っていくところも必要。
- ・ 資料を前時間に読んでおくという方法もあり。

深めるところに時間をかける



- ・ まずは、みんなで問題作りをする。
 - ・ 小グループ（4人くらい）での話し合いを取り入れる。たくさん意見を出し、どれがよいのか比較検討する。
 - ・ みんなで納得できる考え（一番大切にしたい考え方・見方）を見つけ、深める。
- 多面的・多角的に見えるようなヒントを
- ・ ネームプレートを使う。
 - ・ 板書をわかりやすくまとめる。
- 道徳的価値を1つに絞らない方がよい
- ・ 1つの価値にこだわる必要はない。
 - ・ 自己の生き方について、考えればよい。

